

西和賀町観光施設事業経営戦略

団 体 名 : 西和賀町

事 業 名 : 温泉事業特別会計

策 定 日 : 令和 4 年 3 月

計 画 期 間 : 令和 3 年度 ~ 令和 12 年度

※複数の施設を有する事業にあつては、施設ごとの状況が分かるよう記載すること。

1. 事業概要

(1) 事業形態

法適(全部適用・一部適用) 非 適 の 区 分	法非適	事 業 開 始 年 度	平成17年度
事 業 の 種 類	観光その他事業	施 設 名	ほっとゆだ、砂ゆっこ、穴ゆっこ、 丑の湯、真昼温泉、オアシス館
職 員 数	なし		
事 業 の 内 容	(施設管理) 公共温泉施設の営業及び維持管理		
	(源泉管理) 町保有源泉井の維持管理		
民 間 活 用 の 状 況	ア 民間委託	・(株)西和賀産業公社(オアシス館)	
	イ 指定管理者制度	・(株)西和賀産業公社(ほっとゆだ、砂ゆっこ、穴ゆっこ) ・協同組合湯本商店会組合(丑の湯) ・有限会社米沢工務所(真昼温泉)	
	ウ PPP・PFI	なし	

(2) 料金形態

料金の概要・考え方	1回券 小中学生:260円 一般:440円 高齢者:350円 ⇒一般料金と比較して、小中学生は概ね6割、高齢者は概ね8割に設定 回数券(11回券) 小中学生:2,600円 一般:4,400円 高齢者:3,500円 ⇒10回分の金額で11回入浴可 1か月券 小中学生:3,100円 一般:5,200円 高齢者:4,200円 ⇒概ね12回分の金額で1ヶ月入浴可	
料金改定年月日 (消費税のみの改定は含まない)	R1.10.1	

(3) 現在の経営状況

年間利用状況 ※単位を明記すること ※過去3年度分を記載	(ほっとゆだ) H30	51,174人	R01	50,760人	R02	36,408人
	(砂ゆっこ) H30	38,532人	R01	36,594人	R02	24,460人
	(穴ゆっこ) H30	11,494人	R01	12,695人	R02	9,083人
	丑の湯 H30	31,541人	R01	35,098人	R02	30,908人
	真屋温泉 H30	21,191人	R01	21,189人	R02	17,351人
	オアシス館 H30	10,528人	R01	96人	R02	0人
	経常収支比率 (又は収益的収支比率) ※過去3年度分を記載	(ほっとゆだ) H30	100.8%	R01	101.6%	R02
(砂ゆっこ) H30		100.8%	R01	101.6%	R02	101.4%
(穴ゆっこ) H30		100.8%	R01	101.6%	R02	101.4%
丑の湯 H30		100.8%	R01	101.6%	R02	101.4%
真屋温泉 H30		100.8%	R01	101.6%	R02	101.4%
オアシス館 H30		100.8%	R01	101.6%	R02	101.4%
経費回収率 ※過去3年度分を記載		(ほっとゆだ) H30	(56.6%)	R01	(61.3%)	R02
	(砂ゆっこ) H30	(56.2%)	R01	(61.3%)	R02	(52.0%)
	(穴ゆっこ) H30	(11.4%)	R01	(14.4%)	R02	(13.6%)
	丑の湯 H30	25.1%	R01	33.3%	R02	35.3%
	真屋温泉 H30	31.4%	R01	39.0%	R02	42.3%
	オアシス館 H30	18.2%	R01	0.5%	R02	0.0%
	全体 H30	12.4%	R01	11.7%	R02	12.0%
	他会計補助金比率 ※過去3年度分を記載	(ほっとゆだ) H30	(43.4%)	R01	(38.7%)	R02
(砂ゆっこ) H30		(43.8%)	R01	(38.7%)	R02	(48.0%)
(穴ゆっこ) H30		(88.6%)	R01	(85.6%)	R02	(86.4%)
丑の湯 H30		74.9%	R01	66.7%	R02	64.7%
真屋温泉 H30		68.6%	R01	61.0%	R02	57.7%
オアシス館 H30		81.8%	R01	99.5%	R02	100.0%
全体 H30		87.9%	R01	89.4%	R02	88.9%
有形固定資産減価償却率 ※過去3年度分を記載	なし(法非適用のため算定不要)					
企業債残高対料金収入比率 ※過去3年度分を記載	なし(法非適用のため算定不要)					

【上記の収益、資産等の状況等を踏まえた現在の経営状況の分析】

令和元年10月に料金改定を実施したことから経費回収率がいくらか向上したが、それでも経費に対する収入の割合が低い。利用者数が減少していることが大きな原因だが、源泉ポンプやコンプレッサ等、継続的に更新する必要のある設備や建物の老朽化による改修費用が高まっていることから、町一般会計からの繰入金が増額している。

公共温泉施設の設置年度について、ほっとゆだが昭和63年、砂ゆっこが平成2年、穴ゆっこが平成4年、丑の湯が昭和55年、真屋温泉が平成8年、オアシス館が平成9年と、全て20年以上経過しており、ここ数年で建物の大規模改修等は実施していないことから、今後も計画的な投資が必要になると考えられる。それに対する利用料収入の増加を見込めない場合は町一般会計からの繰入金が増額すると考えられる。

なお、オアシス館は令和元年度より現在休止中である。

施設名及び比率でカッコ書きになっているのは指定管理者制度における利用料金制の施設で、それ以外は使用料金制の施設である。
(公共施設の使用料等を指定管理者の収入とすることができる制度が利用料金制であり、従来どおり、公共施設の使用料は町の収入とするのが使用料金制) また施設毎の割合については、以下の方法で算出している。

○経費回収率(通常 営業収益/総費用×100)

利用料金制施設: 利用料収入/(指定管理料+利用料収入)×100 使用料金制施設: 使用料収入/指定管理料×100

⇒利用料金制は町の収入にならないため通常どおりであれば算定できないことから、このような形での算出した

○他会計補助金比率(通常 繰入金/総費用×100)

利用料金制施設: 指定管理料/(指定管理料+利用料収入)×100 使用料金制施設: (指定管理料-使用料収入)/指定管理料×100

⇒指定管理に係る費用に対し、利用料収入または使用料収入を超える分を繰入金でまかなうという考え方であることから、利用料金制は指定管理料=繰入金であるのに対し、使用料金制は指定管理料から使用料収入を控除した分が繰入金に対応するため、このような形での算出した

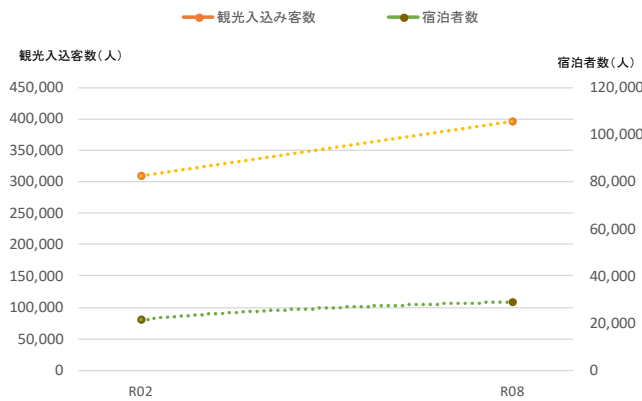
2. 将来の事業環境

(1) 宿泊客数(観光客数)の見通し

以下のグラフは、第二次西和賀町観光振興計画から抜粋したものだが、第一次西和賀町観光振興計画策定時である平成27年度からの推移を見ると、観光入込み客数及び宿泊者数共に右肩下がり状況が続いている。平成28年度は国体等の影響もあり多少増加したが、その後国道107号線の通行止めや町内宿泊施設の閉鎖があり、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、大きく減少している。今後、新型コロナの終息に伴い観光入込み客数が回復するかは不明だが、第二次西和賀町観光振興計画においては新型コロナウイルス感染拡大前の観光入込み客数を目標(令和8年度観光入込客数:395千人)とし、現在第1次アクションプランを策定中である。

現在『西和賀町公共温泉施設の今後のあり方 基本方針』を定め、それに則り今後の施設の維持の方向性(存廃・集約等)について協議を進めている。今後休止する施設も出てくることから、町全体での公共温泉施設利用者数は減少する可能性があるが、第二次西和賀町観光振興計画の中で、『観光情報の収集・分析・発信の推進』、『観光振興に係るハード整備の推進』、『観光振興に係る人材課題の対策』及び『観光コンテンツと土産の多様化』等により交流人口の拡大に繋げ、公共温泉も観光コンテンツの1つという位置づけの中で本町への観光入込み客数の増加を図るものである。

観光入込み客数等の見通し

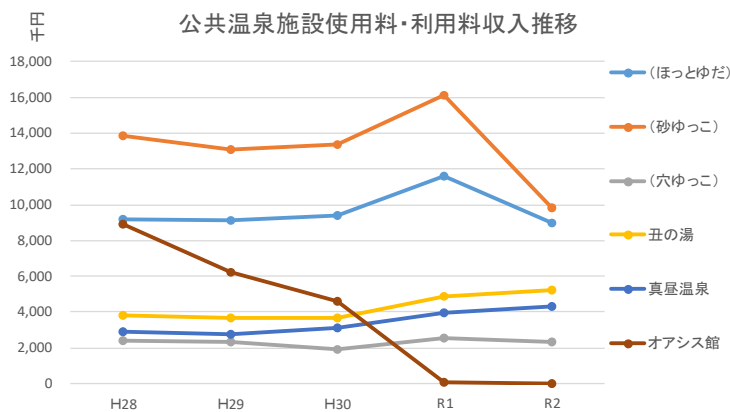


	R02	R08
観光入込み客数	308,400	395,000
宿泊者数	21,456	29,000

R02: 実績数値 R08: 目標数値

(2) 料金収入の見通し

住民福祉に配慮した料金設定のため適正な料金への改定の必要性は感じているが、令和元年度改定済みのため、当面の間は現状維持を継続する。令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症終息につれて利用者数回復に伴い、利用料収入の回復に努める。



	H28	H29	H30	R1	R2	備考
(ほっとゆだ)	9,220,340	9,126,650	9,419,500	11,578,810	8,944,260	
(砂ゆっこ)	13,823,970	13,109,760	13,341,500	16,083,830	9,815,710	
(穴ゆっこ)	2,401,020	2,357,260	1,937,820	2,542,780	2,293,410	
丑の湯	3,837,080	3,698,220	3,655,120	4,892,110	5,262,140	
真昼温泉	2,893,000	2,735,700	3,138,120	3,927,520	4,298,060	
オアシス館	8,899,380	6,208,180	4,614,950	43,125	0	

(3) 施設の見直し

施設の経過年数について、ほっとゆだが33年、砂ゆっこが31年、穴ゆっこが29年、丑の湯が41年、真昼温泉が25年、オアシス館が24年と、全て20年以上経過しており、大規模改修等は実施していない。特に、丑の湯とオアシス館以外は木造のため、積雪や温泉成分を含んだ湯気により外壁内壁ともに腐食が進んでいると想定されることから、全体的に設備だけでなく建物の改修も必要な時期が迫ってきている。施設の数が多く、それに関わる設備も多いことから、現在『西和賀町公共温泉施設の今後のあり方 基本方針』を定め、それに則り今後の施設の維持の方向性(存廃・集約等)について協議を進めてきたところである。

(4) 組織の見直し

なし

3. 経営の基本方針

観光コンテンツとしての公共温泉施設の継続運営(第二次西和賀町観光振興計画第1次アクションプランに掲載)

4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画) : 別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	・既存施設維持のため継続的修繕 ・施設の集約化(集中投資)
-----	----------------------------------

○建設改良費
・ほっとゆだ:浴室等改修を実施予定
・砂ゆっこ:外壁改修を実施予定
・丑の湯:内装大規模改修を実施予定
・真昼温泉:内装大規模改修を実施予定
・源泉施設:源泉ポンプ更新及び源泉ポンプオーバーホール(概ね3年に1回)を実施予定

○施設・設備の廃止・統合(ダウンサイジング)に関する事項
・穴ゆっこ:令和3年度末に休止(その後解体予定)
・オアシス館:解体予定
なお、解体費用については収支計画に未反映である(一般会計対応を想定)

② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	・使用料及び利用料改定の検討
-----	----------------

・料金に関する事項:適正な料金設定の検討
・繰入金に関する事項:施設を維持運営するため、適正な料金収入で賄えない部分を繰入金で対応

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

○委託料

- ・使用料金施設(丑の湯、真屋温泉): 町民利用が大部分であることから人口減少率を踏まえて毎年1%程度の使用料収入減で考えているが、利用者数に関わらず固定経費は必要なことから現状維持とする。
- ・利用料金施設(ほっとゆだ、砂ゆっこ): 利用者数を増やす計画のため、委託料を減らしていく。

(3) 投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

※投資・財政計画(収支計画)に反映することができなかった検討中の取組や今後検討予定の取組について、その内容等を記載すること。

また、(1)において、純損益(法適用)又は実質収支(法非適用)が計画期間の最終年度で黒字とならず、赤字が発生している場合には、赤字の解消に向けた取組の方向性、検討体制・スケジュールや必要に応じて経費回収率等の指標に係る目標値を記載すること。

① 今後の投資についての考え方・検討状況

民間活用	・指定管理者制度の継続
投資の適正化	・施設の状況を的確に把握し、優先順位をつけて改修及び整備を実施していく
その他の取組	・設備故障が発生してからの対処療法ではなく、計画的な機械設備の更新を含めた予防保全の取組みを進めていく

② 今後の財源についての考え方・検討状況

料 金	・適正な料金設定の検討
稼働率・利用者数	・利用客の快適性を高めるよう投資を進め、利用客数の増加を図る。
企業債	なし
繰入金	・委託料の見直しや利用者増に係る利用料収入の増による繰入金の減額
資産の有効活用等による収入増加の取組	・施設の売却の実施
その他の取組	なし

③ 投資以外の経費についての考え方・検討状況

委託料	・指定管理者制度の継続 ・積極的な自主事業の実施や地区との協力体制の強化等、指定管理者の活動の自由度を高めるため、使用料金制⇒利用料金制の導入を検討
管理運営費	なし
職員給与費	なし
その他の取組	なし

5. 公営企業として実施する必要性など

事業の意義、提供するサービス自体の必要性	・現状は宿泊が民間、日帰りが公共施設という住み分けになっている。 ・ほっとゆだ、砂ゆっこは観光の目玉として誘客につなげる。
公営企業として実施する必要性	・観光誘客は町が先導して行うべきとする。

6. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

経営戦略の事後検証、改定等に関する事項	・令和7年度に経営戦略改定予定(5カ年経過)
---------------------	------------------------